「睡眠時無呼吸症候群と心血管リスク」

百村 伸一[1]　苅尾 七臣[2]
Shin-ichi MOMOMURA, MD, FJCC[1], Kazuomi KARIO, MD, FJCC[2]
[1]自治医科大学附属さいたま医療センター循環器科，[2]自治医科大学内科学講座循環器内科部門

近年の数多くの臨床エビデンスにより，睡眠呼吸障害（SDB）のなかでも閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）が，冠動脈疾患，不整脈や心不全などの様々な循環器疾患，さらにはその背景リスクとなる高血圧の成因となることが示されている．我が国においては，2009年には日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン2009」でOSAが新たなリスク病態として強調され，2010年12月には日本循環器学会が“循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン”を発表するに至り，循環器疾患の診療において，睡眠呼吸障害を包括することが不可欠になったといえる．しかしながら，循環器疾患の発症進展における睡眠呼吸障害の役割を未だ十分に認識していない循環器医も多く，また睡眠呼吸障害の重要性を理解していてもその具体的アプローチに戸惑う場合も多いと思われる．このような現状を踏まえ，日本心臓病学会2011シンポジウムでは心血管リスクの観点から睡眠呼吸障害を取り上げた．本特集号はその演者を中心に最新情報をまとめていただいた．